

◇ 行事報告 ◇

8月18日（金）摩利支天月例祭

お盆が終わり、9月には施餓鬼会があります。仏教の式典では散華を撒く、という行いがあり、これは場内を清浄にすると共に、仏様に供養するという意味があります。この華には名前があり、曼陀羅華（まんだらけ）、曼珠沙華（まんじゅ



しゃげ）という名前です。これは序品第一という法華経の最初のお経にも出てきます。

仏様に供養するのですから、どのくらい清浄な華なのか気になります。

実は、曼陀羅華は白蓮華とも云われ、仏教の象徴のような華ですが、別名朝鮮朝顔といい、根にも葉にも全てに毒を持っているナス科の植物です。曼珠沙華は「リコリス」という名で花屋でも売られていますが、印度では「マンジュシャカ」は「赤い」という意味で、秋に咲く「彼岸花」のことであり、この花も毒をもっています。



では、この毒を持っている花を仏様に供養するのは何故でしょうか？

朝鮮朝顔は日本で初めての全身麻酔で使用されたそうです。使い方で薬になるのですね。彼岸花（曼珠沙華）は球根をすり潰して、念入りに水にさらし、アルカロイド系の毒を除けば、食用になるため、飢饉の時の非常食としていたそうです。

人も貪欲・瞋恚・愚痴（貪・瞋・痴の三毒）を持っているものです。この散華の意味する所は、人の煩惱そのままを神仏は受け止め、毒を変じて薬（さとり）とし、薬を与えられるのです。「慈悲」の「慈」は薬を与えることで、「悲」は苦を抜いてあげることとあります。仏様は我々の毒をそのまま受け止められ、また喜んで身に受けにおられます。そして法華経「南無妙法蓮華経」の功德によって良薬となり、慈悲の力で苦を取り除いてくださるのです。お題目を唱え、知らず知らず付いた毒の垢を取りたいものです。

8月23日（水）少年少女の集い

庭瀬組寺主催による「少年少女の集い」が3年ぶりに妙法華寺を会場に開催されました。

従来の一泊二日ではなく一日のみで行われ、当日は雨が降るなかでしたが、子どもたちは、お経や太鼓の練習、カレー作りや仏画を描くなど充実した一日をすごしたようです。

お手伝いいただいた方々に感謝いたします。



◇ 行事案内 ◇

摩利支天月例祭

10月18日（水）・11月18日（土）午前10時より執行いたします。

お会式法要

11月18日（土）お逮夜・翌19日（日）に執行いたします。

18日は午後6時より、19日は、午前10時より一座目、午後2時30分より最終座を始めさせていただきます。（19日の一座目と最終座の間は随時）是非ご参拝下さい。

功徳主	日蓮大聖人 報恩御会式	御寶前
	浄財志納金	金 円
妙法華寺		

担当世話人のおられる檀家の方は、10月にお渡しする左の写真の封筒を以て御浄財をお願いいたします。また、遠方の方は、10月のお便りに同封する振込用紙にて御浄財をお願いいたします。

なお、御浄財を頂いた方には、右の写真にあります御札をお渡しします。この御札は御仏壇に安置して頂くものです。御札の一番上にあります曼荼羅は災厄から護って下さるものです。その下に日蓮聖人の尊名と聖語をしるしております。

一年を通じて日蓮聖人の威徳をご先祖様にお唱えし、功德をお積み下さい。



合掌